



日本有数の産所・灘五郷で、各酒蔵が訪日外国人客への日本酒の売り込みを強化している。日本酒は国内での販売量が減少しているが、海外では日本食ブームを背景に関心が高まっている。各酒蔵が併設する観光施設を訪れる外国人客も増えており、国の制度面での後押しも受けながら、販売拡大につなげようとしている。

(岸田藍)

■ファン拡大
「日本の伝統的な酒に関心があった。製法が詳しく分かって試飲ができるのもいいね」

神戸市東灘区の「白鶴酒造資料館」。韓国からツアーで訪れた会社社長、高辰翊さん(44)は酒瓶を手に笑顔を見せた。

同館は、酒造りの工程を模型や映像で紹介するほか、所々に設置された「QRコード」をスマートフォンなどで読み取れば解説が15か国語に翻訳される仕組みも導入している。

同館の2017年度の来場者約14万人のうち、3割近い4万人が外国人客で「外国人

灘五郷の外国人客誘致強化



日本酒を買い求める訪日外国人客 (神戸市東灘区の白鶴酒造資料館で)

和食ブーム 商機醸す

客がない日はほとんどない」という。
白鶴酒造の担当者は「一人でも多くの外国人にファンになってもらい、販売を増やしたい」と力を込める。

「神戸酒心館」(東灘区)も英語やフランス語を話すスタッフを配置するほか、SNSなどを使ってその場で情報発信してもらえよう無料インターネットに接続できる

通信環境も整備している。「菊正宗酒造記念館」(同区)はしほりたて生原酒の試飲が外国人客の人気を集めているといい、9か国語のパンフレットを用意している。

国内で苦戦各酒蔵が外国人客対策を強化するのは、国内で日本酒離れに歯止めがかからないから。国税庁などによると、17年度の国内の販売量は52万キ

酒税免税制度の仕組み



酒の販売許可を受けた店舗

主な要件

- 製造所を設けた業者が自ら仕込んだ酒類
- 訪日客の旅券の提示
- 5000円以上50万円以下の買い物

酒税と酒割が免税に

訪日客は未開封のまま出国 (税関で購入記録票を提出)

などが17年に欧米からの旅行客を対象に行った調査でも、日本文化の中で興味があるジャンルで「和食」が半数を占め、印象に残った和食の中で日本酒はすし、ラーメンに次いで3番目につけた。滞在中に、日本酒を飲んだことがある人も8割超に上った。

■国も後押し
国も酒蔵の取り組みを後押しする。17年10月に、訪日外国人客が対象となる酒税免税制度を導入。県内では、白鶴など計8か所(18年10月時点)が許可を受けている。

ただ、現行の制度では、酒蔵のスタッフが購入記録をパスポートに貼り付けて割り印する作業を手がける必要があるなど手続きが煩雑で、販売現場からは「スケジュールが立て込むツアー客に対して、時間内に全員対応しきれないことも多い」(白鶴)と悲鳴が上がる。

2組女子 健康スポーツ系志望
読売新聞 1月28日分